エピローグ　No1

みんなの結論は…ロンを犯人として拘束することであった。

彼は、さして抵抗する事もなく取り押さえられ…夕方になって到着した警察に引き渡された。

拘束されている間、彼は一言もしゃべらなかったが…警察の車に乗せられる間際、
泣き叫んですがるキャシーに一言だけ、「すまない…」とつぶやく。

この事件は、地方の新聞の片隅に小さく報道された。

支配人を殺害したロンは、殺人罪として有罪判決をうけたが、事件当時ジャックが
刃物を所持していた事実が認められ、判決では大幅な減刑がくだされた。

ジェシカは事件の後、高校の教師を辞めた。

キャシーとは色々あったけれども、なんとか落ち込んでいた彼女と共に歩む道を選んだ…
そして…2人でホテルの立て直しを決意したのである。

それから5年の歳月が流れ…

ロンの刑期が終わり、 キャシーと再会した日の事を私は忘れない。
彼はまた一からホテルで働きたいと申し出て、泣きながら私たちは迎え入れた。

人は過ちをおかすものだ。 そして過ちは、人生を狂わし…悪夢をみせる。

だが夢はいつかは、覚める。 覚めなければならない。

それからさらに一年後　二人は結婚し、子供を授かった。

私は失意の人生をずっと歩んできたが、今はとても幸せである。

2人の娘と共に暮らし、孫までさずかったのだから…

秘境にそびえたつ小さなホテルは、少しずつ立て直し始めている。

ホテル支配人代理　デッドの手記より